

令和7年度 認定こども園自己評価結果報告書

1. 本園の教育・保育目標

子どもの健全な心身の発達を図りつつ生涯にわたる人間形成の基礎を培うため、生活や様々な経験を通して生きる力の基礎を育むことを目標にする。

教育の目標

- ◎人の話を聴く力を育てる
- ◎集中力を身につける
- ◎ルールを理解し守る力を育てる
- ◎良い人間関係をつくる力を育てる
- ◎五感を使い感じ取る力を育てる

保育の目標

- ◎愛されていると実感し意欲的に生きていく力を育てる(養護)
- ◎よく食べて、よく遊び、よく眠る(健康)
- ◎命あるものすべてを大切に思い、自分も大切に子ども(人間関係)
- ◎身近な環境や自然とのかかわりの中で、自分で考え行動できる力を育てる(環境)
- ◎人の話をよく聞き、自分の考えを話し、伝え合う喜びを味わう(言葉)
- ◎心の動きを自分なりに表現する豊かな心を育てる(表現)

2. 令和7年度の園のテーマ

昨年からクラス単位のテーマに変わりましたが今年度も引き続きクラス単位のテーマで進めました。昨年の主体性をメインにした「やってみよう」の先、今年度は楽しいクラス、楽しい毎日をテーマにするクラスが多かったようです。

にじ組	感じよう、つながりのあたたかさ～人・モノ・心・自然～
たいよう組	やってみたいがいっぱい！のびのびすごす楽しい毎日
ほし組	みんながいいき のびのび 笑顔、優しさあふれるクラス
うさぎ組	“やってみたい” “おもしろい” “好き”を見つけよう！楽しもう!!
りす・ことり組	元気いっぱいおもいっきりあそぶ!!～にこにこ嬉しい♪のびのび楽しい★～
ひよこ組	笑顔でつながる毎日～ワクワクする未来へ～

3. 目標・計画の達成及び取り組み状況

保育内容の共通認識	乳児保育 ・育児担当 ・一人ひとりの子どもの発達をその子どもの状況に合わせて援助する。 ・食事・排泄・着脱(決まった大人が決まった子どもの世話) ・愛着関係 幼児保育 ・異年齢保育(相手を思いやる気持ち。尊敬やあこがれ) ・遊びや生活を通しての学び。主役は子ども。(体験型テーマ保育)
保育教諭の資質向上	専門性をより深めるため研修の充実・参加 専門書を読むことで自己研鑽 目標の設定(月案・週案・個別記録など)振り返り
保護者に対する支援	子どもの成長の喜びを共有 (連絡ノートの活用・保育参加・個人懇談・行事への参加)

	保育内容の説明(ドキュメンテーションの掲示など) 子育てに関する相談・援助 保護者への個別支援
地域子育て支援	保育所機能の開放(マイ保育園・園庭開放・一時預り事業) 関係機関との連携 情報提供
健康及び安全	健康 ・規則正しい生活習慣を身につける ・運動会前に尿検査実施(3・4・5歳) ・健康診断の実施(内科(年2回)・眼科・歯科・聴力検査・視力検査) 安全 ・災害への備え 安全計画作成・見直し ・日常から保育者の指示に耳を傾け緊急の場合は慌てずに行動する。 ・避難訓練・総合防災訓練・防犯訓練・交通安全教室

4. 認定こども園の総合的な評価結果

子どもの主体性、大人の主体性に目を向けてすすむ園を目指す中で、今年度はクラス決めに職員に一任することになりました。職員は自分の意思で、どのクラスを担当したいかを発表し重なった時は話し合いでクラスが決まりました。職員の専門性、乳児・幼児への適正など今まで園長、主任などが決めていたものを職員自らに任せることで、今まで以上の責任感とやる気生まれると期待し決めた結果です。実際には自分が思っていたのと違うこともあったかもしれませんが、自己決定を実現しやり遂げた充実感・満足感は大きく来年度も引き続き行うことになりました。

乳児のすくすくフェスティバルも従来通りだと子どもの発表を保護者に見ていただく形でしたが、保護者やおうちの方にも参加していただき、子どもと一緒に遊んだり、保護者同士の繋がりの場として日頃の子育ての悩みや楽しいエピソードを披露してもらうなど楽しく有意義な時間が持て保護者支援の場にもなりました。卒園式の卒園児代表の保護者による謝辞の中で園が目指す保育、育てたい子どもの姿を理解してくださり子どもたちをしっかりと育てて下さったと過分の感謝と若竹保育園を選択したことは正解だったという言葉をいただき、自分たちの目指す保育に自信がもてました。

5. 今後の取り組むべき課題

保育内容の充実	異年齢保育をさらに充実させ、保護者の理解を深める。 体験型テーマ保育を充実させ、主体的・対話的な深い学びを更に充実させる。 認定こども園としての役割を理解し1号認定の子どもにも等しく教育・保育の保障をする。 評価・反省を繰り返す中で、子どもに必要な環境、健やかな成長のための保育を目指す。
小学校への連携	年長児やその保護者が安心して期待を持って進学出来るような取り組みを行う。 地域の小学校の行事や見学会に参加する。 進学する小学校の先生が子どもの様子を見に来る。来ない場合は電話での聞き取りに対応する。 気になる子の引継ぎを密にする。
子育て支援の取り組み	特別な支援の必要な子ども(外国籍の子どもも含む)に対し、適切な指導や援助、関わりが持てるようにする。